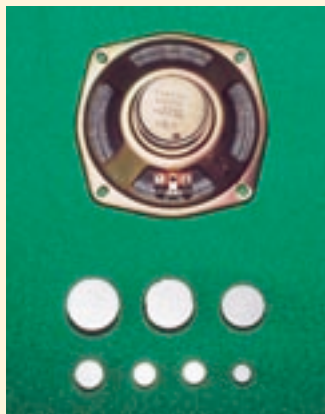


## 三島徳七の代表的発明(MK鋼)

ニッケル鋼の特殊な性質を研究していた東京帝国大学の三島徳七博士は、昭和6年、析出分散硬化型という全く新しい理論展開により、ニッケル鋼にアルミニウムを添加した強力な磁石鋼(MK鋼)を発明しました。

日本での特許のほか海外でも積極的に特許を取得し、日本においては東京鋼材株式会社に、欧州においてはポッシュ社に、米国においてはGE社にそれぞれ実施権を与え、世界的規模の工業生産に発展しました。

MK鋼は、安価に生産ができ、小型化しても強い磁力が保たれ、しかも熱的变化や振動に対して安定しているという優れた磁石のため、電子機器や通信機をはじめ航空機、自動車、計測器、制御装置などの進歩に多大な貢献を果たしました。



スピーカーに使用されている  
様々なサイズのMK鋼



昭和25年、故郷の広石小学校に寄贈されたMK鋼の記念碑  
(台上には二本のMK鋼があり、磁石の反力により一本が宙に浮いている)